

令和4年度

事業報告

令和4年4月1日～令和5年3月31日

公益財団法人

ひと・健康・未来研究財団

令和4年度事業報告

(期間:令和4年4月1日～令和5年3月31日)

事業概況

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するために、健全な食生活と予防医学に重点をおいた研究、さらに自然との共生を基本に、こころの健康を目指した研究を振興し、もって国民の健康増進と生活の質の向上に寄与する。

公益事業として

- (公1)ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための研究調査事業を実施
- (公2)ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための研究に関する助成事業を実施

事業の内容

定款の第4条における1、2、3についてはいずれも研究調査事業の具体的内容であり、事業としては一つと考えているため、公1にまとめている。

令和4年度(2022年度)の活動実績の概要は以下の通り。

1. ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための研究調査事業(公益1)

(1)「ひと・健康・未来」の研究調査事業

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するために、文科と理科の壁を取り払い知のフロンティアとして実施している。この事業は不特定多数の者の利益の増進に寄与することを目的としており、当財団役員が中心的な役割を果たし、その結果を公表している。

(1)－①研究会の推進(未来研究会の開催)

財団役員を含む科学者と外部の知の交流として、当財団役員の企画により実施している。令和4年度は第51回から54回までを実施した。日程、講師、テーマは以下の通り。

●第51回 未来研究会

日 程/ 令和4年7月22日(金)

講 師/ 柴田 悠(京都大学大学院准教授)

テーマ/ 「日本の少子化問題－課題と解決策－」

「2100年」の日本が、「人口減少に歯止めがかからず人材流出・人手不足・生活悪化に苦しむ社会」になるか、「子どもを産みたくなるほど幸せを実感できて、人口減少に歯止めがかかった社会」になるかは、「2045年」までの政策にかかっている。そのためにもどのような政策が必要かを検討した結果などについての講演。

●第52回 未来研究会

日 程/ 令和4年12月5日(月)

講 師/ 笥 善行(香川大学学長)

テーマ/ 「イノベーター人材の育成:香川大学の取り組み」

不確実で先の読めないVUCA(ブーカ:不確実かつ複雑、将来が不透明)時代が到来している。ダウンサイジングしながら、如何に国力を再浮上させられるか、そのためには価値創造型・課題解決型人材の育成が急務である中、香川大学で取り入れているデザイン思考教育などを紹介し、人材育成について講演。

●第53回 未来研究会

日 程/ 令和5年1月23日(月)

講 師/ 塩尻 かおり(龍谷大学教授)

テーマ/ 「揮発性物質(匂い)を介した植物間コミュニケーション」

植物は、被害をうけると被害の種類に応じて揮発性物質(匂い)を放出し、周辺にいる様々な生物の行動や生理に影響を及ぼす。匂いを受容した植物の防衛が高まるという現象「植物間コミュニケーション」の最新の研究結果と応用について講演。

●第54回 未来研究会

日 程/ 令和5年3月2日(木)

講 師/ 藤本 憲一(武庫川女子大学教授)

テーマ/ 「視覚化する味覚～『インスタ映え』から『遠心的美学』へ」

若者を中心として流行中の「インスタ映え」を、「味覚の視覚化」現象として捉え、考察・分析を加え講演。また、「遠心的美学」という観点から、未来の美意識の展望について考察。

(1)－②市民公開講座の開催

研究の成果をまとめ、市民公開講座「ひと・健康・未来シンポジウム」を開催し、公衆への啓蒙活動としている。開催については当財団役員を含む専門家が関与し、企画から運営にあたっている。参加は自由であり、参加費は無料。令和4年度の市民公開講座は、コロナ感染状況を見ながら進めてきた。シンポジウム福島は、開催地で医療緊急事態宣言が発令されたため、急遽 Zoom を使った完全オンライン開催とした。シンポジウム京都は、ハイブリッド形式で開催した。昨年度から始めた「座談会シリーズ」を引き続き継続し、今年度は2回開催した。内容は財団機関誌に順次掲載予定。

●第26回ひと・健康・未来シンポジウム2022福島(オンライン開催)

・日 程/ 令和4年9月17日(土)～19日(月・祝)

・テーマ/ 「『食』を考える－今の食卓に大切な栄養学 PART2－」

・参 加/ 440名(3日間の延べ人数)

健康づくりや生活習慣病の予防を進めるためには、健全な食生活を実践できる力を育むことがとても重要である。健康長寿を阻害する最大の要因である生活習慣病を予防するために、何を食べるのがよいか、いつ食べるのがよいか、どう食べるのがよいかについて、オンラインにより3日間に分けて講演。

●第2回 座談会シリーズ

・日 程/ 令和4年7月4日(月)

・テーマ/ 『『触る』を取り戻す』

コロナ禍で非接触が当たり前になりつつある日常で、改めて「触ること」「触れ合うこと」を問い直した座談会。国立民族学博物館で開催された。

●第3回 座談会シリーズ

・日 程/ 令和4年11月18日(金)

・テーマ/ 「環境と福祉をキーワードにして」

環境において、経済活動を含む人間の諸活動が、地球環境に負荷をかけ、気候変動や自然災害の多発化を生み出している。福祉において、環境と福祉を統合した「環境福祉」という概念について提案がある。それぞれの視点からポストコロナの社会について語られた座談会。

(1)－③成果の公開と出版活動(出版)

市民公開講座、未来研究会の成果をより多くの人々に周知するために、令和4年度は機関誌「ひと・健康・未来」を3回発刊し、講演内容ほかを掲載している。更に、ホームページ上で開催告知や機関誌のアーカイブをPDFファイルにして公開している。機関誌の掲載内容は以下の通り。

●「ひと・健康・未来」31号(令和4年7月発刊)

・特集/ 座談会シリーズ第1回「パンデミックの年に入学した大学生の苦悩と希望」

・スペシャルインタビュー/ 「宇宙を知ることというのは地球を知ることにつながる」

・第50回未来研究会/ 「子どもの身体に異変が起きている:世界と日本の子どもの体格・体力」

・コラム/ 食と農の旅「和食文化としての京料理と京都の農」

●「ひと・健康・未来」32号(令和4年11月発刊)

・特集/ 座談会シリーズ第2回『『触る』を取り戻す』

・スペシャルインタビュー/ 「さもないことに手間暇をかける」

・第51回未来研究会/ 「日本の少子化問題-課題と解決策-」

・コラム/ ひとと健康と未来と-財団の窓から-「パンデミックを超えて」

●「ひと・健康・未来」33号(令和5年3月発刊)

・特集/ 第26回ひと・健康・未来シンポジウム2022福島『『食』を考える-今の食卓に大切な栄養学 PART2-』

・スペシャルインタビュー/ 「人新世の視座から持続可能性と公正さの実現を目指す」

・第52回未来研究会/ 「イノベーター人材の育成:香川大学の取り組み」

・第18回助成研究発表会特別講演会/ 「医療における『言葉の力・沈黙の力・触れる力』」

・令和4年度助成研究発表会報告

・コラム/ ひとと健康と未来と-財団の窓から-「創造とは何か」

(1)－④成果の公開と出版活動(ホームページ)

機関誌のアーカイブ、イベント情報や研究助成の告知など、財団からの情報を発信する

重要な媒体として位置付けている。より多くの方に有益な情報をお届けするため、情報の充実やコンテンツの見直しに努めている。

(2)「ひと・健康・未来シンポジウム」の調査研究事業

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための調査研究と普及及び啓発事業。こころ、健康、自然環境の情報の調査研究を行い、普及と啓発を行っている。

(2)－①情報の収集と公開講座の計画

財団役員の科学者を含むプロジェクトにおいて学術情報を収集するとともに他機関の研究者に呼び掛け、知識の普及と啓発を行うためにシンポジウムを計画した。

(2)－②市民公開講座の開催

年1回は、財団の拠点である京都で市民公開講座「ひと・健康・未来シンポジウム」を開催し、知識の普及と啓発を図っている。参加は自由であり、参加費は無料。令和4年度の開催は以下の通り。

●第27回ひと・健康・未来シンポジウム2023京都(ハイブリッド開催)

- ・日程/ 令和5年2月11日(土・祝)
- ・会場/ 京都リサーチパーク
- ・テーマ/ 「和食の未来－外から見た和食、内から見た和食－」
- ・後援/ 和食文化学会、京都府、京都市、京都市教育委員会、京都市社会福祉協議会、京都新聞
- ・参加/ 85名(オンサイト:29名、オンライン:56名)

近年、世界中で「和食ブーム」が起こってきており、特に「ユネスコの無形文化遺産」となってからは、さまざまな意味で和食の可能性、特色、問題点が見出され、また再評価されている。このシンポジウムでは、海外からと、国内からの各視点で、グローバル化する社会の中での和食を見直し、未来の和食について考察した。

(2)－③成果の公開と出版

市民公開講座の成果をより多くの人々に周知するために、テーマがまとまった段階で発表者の論文等を集め印刷物として出版している。当該市民公開講座は令和5年7月発刊の機関誌「ひと・健康・未来」34号において、講演内容を掲載する予定。また、ホームページ上で講座の開催告知や機関誌のアーカイブをPDFファイルにて公開中。

(3)海外諸団体との連絡協力のための調査研究事業

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための調査研究に関わる海外諸団体との連絡及び協力のための事業。こころ、健康、自然環境の調査研究に関する海外諸団体との連絡及び協力を進めている。

(3)－①海外諸団体との連絡協力

財団役員の科学者を含むプロジェクトにおいて海外研究者、諸団体との連絡と協力を進め、研究者に呼び掛けて連絡と協力を行い、普及と啓発を行うために国際的な研究者によるフォーラムを計画、開催する。令和4年度は、役員から上記事業に関して、実施でき

る事業提案がなく行っていない。今後テーマのあり方について継続して協議を続ける。

(3)－②公開講座の開催

調査研究テーマに関して、数年に1回「国際フォーラム」を開催し、知識の普及と啓発を図る。上記理由にて、令和4年度は実施していない。

(4)共同研究と委託研究

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための基礎研究や臨床研究、さらに調査研究などを共同研究や委託研究により進める事業。健全な食生活と予防医学に重点をおいた研究、さらに自然との共生を基本に、こころの健康を目指した研究などを進める研究者と共同研究と委託研究を進める。

(4)－①共同研究と委託事業の推進

財団役員の専門家が上記に関連するテーマについて検討し、本財団の目的に適合する基礎研究や臨床研究を進めている研究者を検討し、共同研究または委託研究を行う。令和4年度は役員から、上記事業に関して、実施できる事業提案がなく、行っていない。今後、テーマのあり方について継続して協議を続ける。

(4)－②研究成果の公開

上記理由にて、令和4年度は実施していない。

(5)がんの温熱療法の調査と普及促進

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための調査研究のひとつとして、がんの温熱療法の普及促進のための調査と広報事業である。令和4年度は役員から、上記事業に関して、実施できる事業提案がなく、行っていない。今後テーマのあり方について継続して協議を続ける。

(5)－①情報収集活動

上記理由にて、令和4年度は実施していない。

(5)－②広報活動

上記理由にて、令和4年度は実施していない。

2. ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための研究に関する助成事業(公2)

(1)「食品」、「環境」、「医学」、「福祉」をテーマとする公募による研究助成

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための研究に関する助成事業。

(1)－①研究助成の申請及び選考

上記に関するテーマにおいて、重要な研究であるが科研費等の公的予算がなかなか降りないような研究をサポートしたいと考えている。公募の申請書を元に財団選考委員会が選考する。令和4年度は公募(令和4年4月1日～4月30日)、選考委員会(令和4年6月28日)を実施した。令和4年度の応募総数は430件であった。

採用件数14件(食品2件、環境2件、医学8件、福祉2件)、助成金総額は 1,300 万円。
採用結果は以下の通り。

<食 品>採用件数:2 件

「加齢によるインスリン抵抗性を改善するための機能性食品の開発」

三谷 墨一／信州大学大学院 総合理工学研究科農学専攻

「食用サボテンの腸管バリア維持機能および自然免疫機能に及ぼす影響」

小柳 えり／川崎医療福祉大学健康体育学科

<環 境>採用件数:2件

「水田生態系における多種共存の解明」

永野 真理子／京都先端科学大学バイオ環境学部バイオ環境デザイン学科

「都市住宅地域の空き地は緑視率を向上させ地域社会に寄与するか？

—都市社会学・社会病理学・メンタルヘルスの重層的調査—

水上 象吾／佛教大学社会学部

<医 学>採用件数:8件

「スプライシング異常を標的にした次世代がん治療法の展開」

吉見 昭秀／国立がん研究センター研究所がん RNA 研究ユニット

「熱産生脂肪細胞の誘導因子の探索と予防医学への応用」

小栗 靖生／京都大学大学院農学研究科

「非アルコール性脂肪性肝炎関連肝細胞癌が発癌過程で備える免疫逃避機構の詳細解明」

熊谷 庄悟／国立がん研究センター先端医療開発センター

「RI によるがん治療の効果と安全性に関する研究」

織内 昇／福島県立医科大学先端臨床研究センター

「EBV 感染により覚醒する新規脂肪酸不飽和化酵素の同定とその医療展開を目指した基盤構築」

工藤 海／東海大学医学部

「体内をくまなく照らすことができる生体光照射デバイス開発と臨床応用」

佐藤 和秀／名古屋大学大学院医学系研究科

「ネット・ゲーム依存の治療法開発を施行した行動嗜癖モデルマウスの確立とその病態メカニズムの解明」

西谷 直也／金沢大学医薬保健研究域薬学系

「代謝栄養シグナルによる味蕾幹細胞制御機構解明とその味覚障害への応用」

五十嵐 正樹／東京大学医学部附属病院糖尿病・代謝内科

<福 祉>採用件数:2件

「重度の身体障害児・者の成長過程における生活空間とケア環境の課題の抽出とその環境改善のあり方の検証—その環境ステージに合わせた安全・安心で快適な暮らしを作るためのアセスメントシートづくり—」

小島 直子／株式会社アンデコール／東京家政大学

「ネット社会による孤立・依存を予防するプログラムの開発」

篁 宗一／静岡県立大学看護学部

(1)－②研究助成テーマの研究成果発表会の開催

研究助成を受けた研究成果の発表を行う。発表会には近隣の食品系、環境系、医学系、福祉系の大学を含めた各大学に招待状を送付し、参加費は無料である。令和4年度は、令和4年11月12日(土)に京都市リサーチパークで、ハイブリッド形式で開催した。研究助成の意義を周知する目的で一般市民を公募により招待し、3年ぶりに特別講演をハイブリッド形式で開催した。特別講演の内容は機関誌に掲載し、機関誌はホームページ上でアーカイブをPDFファイルにして公開している。

●第19回助成研究発表会

日 程/ 令和4年11月12日(土) 11:30～17:00

会 場/ 京都市リサーチパーク

発 表 者/ 14名(全員オンサイト)

参加役員/ 11名(オンサイト10名、オンライン1名)

特別講演/ 「医療における言葉の力・触れる力・沈黙の力」 中井吉英理事

参 加 者/ 131名(オンサイト35名、オンライン96名)

3. 評議員会及び理事会に関する事項

(1)令和4年5月20日開催 定例理事会 ※リモート併用会議による

議事内容	審議結果
令和3年度事業報告等	承認
令和3年度決算報告	承認
次回評議員会の招集	令和4年6月20日書面決議
令和4年度職務執行状況報告	理事長、副理事長より報告

(2)令和4年6月20日 定時評議員会 ※決議・報告の省略による全員同意

議事内容	審議結果
令和3年度事業報告等	理事長による報告
令和3年度決算報告	承認
令和4年度事業計画	理事長による報告

令和4年度事業収支予算	理事長による報告
令和4年度資金調達及び設備投資の見込み	理事長による報告
令和4年度選考委員選任	理事長による報告
役員等の報酬等並びに費用に関する規程改定	承認

(3)令和5年3月14日開催 定例理事会 ※リモート併用会議による

議事内容	審議結果
令和5年度事業計画案	承認
令和5年度事業収支予算案	承認
令和5年度資金調達及び設備投資の見込み	承認
令和5年度選考委員選出	選出
令和4年度職務執行状況報告	理事長、副理事長より報告

※本年度、新型コロナウイルスの影響により、決議・報告の省略の方法、リモート併用による開催の方法にて実施した。

以上